

シンポジウム

地球温暖化軽減のための適正技術

SEARCA、Los Banos、Laguna
2008年1月24日

企画および主催

フィリッピン大学財団 (UPLBFI)

筑波バイオテック研究株式会社

共催

南洋桐 BDF プロジェクト (PNOC-AFC)

ビコール大学 (BU)

ココグリーン株式会社 (CocoGreen)

高度な農業教育および研究のための南東アジア地域センター

(SEARCA)

開催主旨および背景

企業および他の人的活動による化石燃料の過剰な消費は大気中の炭素の蓄積をきたした。この蓄積は地球温暖化の主要な原因である。国連の人間開発レポートでは、地球温暖化によりまたは気候変動は大規模な人間および経済上の失敗と同様、不可逆的および生態学的な大災害を引き起こす。

1997年の京都議定書はより気候にやさしい政策および技術を採用することをすべての国が可能にするために財政および技術協力を支援するように計画されている国際的戦略である。日本は、京都議定書を批准することを気候変動国際会議に少なくとも55の国が批准するように要求した先進国のうち最初で数少ない国である。

フィリピンは群島国であるために気候変動に非常に傷つきやすい国である。しかしそれは京都の議定書の下でCDMの実践とこれを活用する政策に積極的に参加することによって全体的な炭素放出量を止めることに貢献できる。一方、日本はアジア中で高度な工業国であり、再生可能エネルギーの源を用い、よりきれいな、少ない温室効果ガスの排出ならびにより小さくおよびより有効なエネルギー技術を開発した国である。バイオマスエネルギー開発についてこれら二つの国間のパートナーシップの強力な構成は両国家間にとってよい前兆となるであろう。適正エネルギー技術に関するシンポジウムの開催は高められた理解のための方法および地球温暖化の軽減をはかるための2日国間の行動の理解と強調を高める道をはぐくむであろう。

シンポジウムの一般的な目的は日本とフィリピン間の情報交換のフォーラムを提供することである。これによって地球温暖化を軽減するためのバイオマスエネルギー技術において可能な協同と開発をもたらす両国の気候変動の課題を説明する。

主要な目的は次の通りある：

1. 開催地をフィリピンの気候変動とバイオマスエネルギー開発の現状報告；
2. 再生可能エネルギー源の最近の日本の技術とその見通しを参加者に精通させる；
3. 京都の議定書の下で再生可能エネルギー技術の日本とフィリピン間の可能なCDMの実行戦略の探査。

期待される成果

このシンポジウム開催後に期待される成果は次のとおりである：

- ・ この全体的な現象に演説する地球的気候変動、原因についての認識の向上および機会の提供；
- ・ 再生可能エネルギーの技術に方向づけられたプロジェクトの策定のためフィリピンと日本のさまざまなステップ、利益と有効な情報の共有；
- ・ 温暖化を軽減するための戦略としてバイオマスエネルギー技術開発を追求する日本とフィリピン間の堅固な協力関係の構築。

プログラム

24 January 2008

08:00 - 09: 00	参加登録
09:01 - 09: 20	開会の辞 Luis Rey I. Velasco 博士 フィリッピン大学学長、 UPLB
09:21 - 9: 30	開催主旨 Justino R. Arboleda 博士
9:31 - 9:45	休憩
司会者: Ramon Razal 博士	
<u>技術的な 会議</u>	
9:45 - 11: 10	気候変動および CDM Rodel Lasco 博士 国家コーディネータ、ICRAF
	フィリピンのエネルギー部門の CDM における政府の方針 工学士 Julian Amador、 ディレクター、 EMB、 DENR
	フィリピンの発電のためのバイオマスの潜在性 Jesse Elauria 博士 エンジニアリング科学科, 准教授、 CEAT、 UPLB フィリピンのバイオマス研究の中心人物
	エネルギーおよび燃料消費量、代替エネルギー Mario Marasigan 氏 ディレクター、 、フィリッピン共和国エネルギー省
11:11 - 11: 45	質疑応答 Victoria Espaldon 博士 学部長、 SESAM、 UPLB
11:45 - 13:00	昼食
13:00 - 13: 20	南洋桐の BDF 生産方針 工学士 Peter Abaya、 CEO、 PNOC-AFC
13:20 - 13: 40	Biodiesel の製造および利用 Roberto Guarte 氏 Visayas 州立大学

13:40 - 14:00	燃料エタノール Ernesto del Rosario 博士 名誉教授、 UPLB
14:01 - 14:20	フィリピンのバイオガスの生成の産業的潜在性 工学士 Gerry Tee, 工場生産責任者、 Absolut 化学薬品株式会社
14:21 - 15:00	質疑応答 Virgilio Villancio 博士 南洋桐 BDF のプロジェクトリーダー UPLB
15:01 - 15:15	休憩
15:16 - 16:15	<u>講演（日本側）</u> 日本 の生物量エネルギー開発の見通し ポール 孝志 應和および前川孝昭 食品リサイクルのための費用効果が大きく、 商業規模メタンの発酵システム 前川孝昭 外燃機関としてスターリングエンジン の導入 手塚信利、島田 敏 および前川孝昭
16:15 - 16:45	質疑応答 Rex Demafelis 教授、 CEAT、 UPLB
16:45 - 17:00	総合討論 Ramon A. Razal 博士
17:00 - 17:10	閉会の辞 Cecilio R. Arboleda 博士 常務取締役、 UPLB Foundation Inc。
18:00	小グループミーティング